

“DP コースに関心があるけど・・・”  
“DP ってどういう勉強をしているんだろう？”

そんなあなた、ぜひ館内ではじまった11回生(6年生)の  
作品ポスター展を観に来ませんか？  
今回はDPの文学での学びの一旦を知ることができる  
貴重な機会ですよ！



## ■ 今月の新着図書から ■



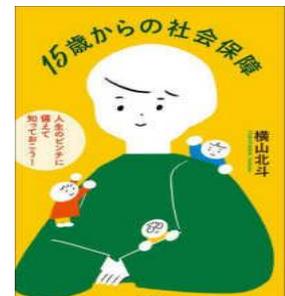
『心をととのえるスヌーピー』 分類 188  
チャールズ・M・シュルツ / 光文社

チャールズ・シュルツ氏の漫画「ピーナッツ」を、詩人の谷川俊太郎さんが翻訳をしました。その言葉の数々は、「禅」に通じるものがあるということからこの本がうまれたのです。サブタイトルは「悩みが消えていく禅の言葉」。見開きページごとに、「ピーナッツ」の漫画と禅語がひとつ紹介されています。



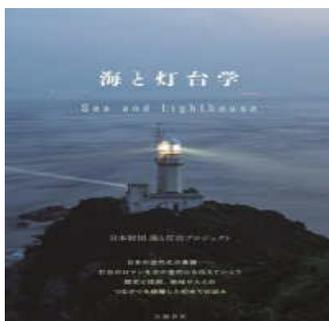
『ボーダー 移民と難民』 分類 329  
佐々涼子 / 集英社

“おもてなしの国日本”という言葉からはかけ離れた日本の移民・難民への対応を取材したノンフィクション。難民申請をしたアフガニスタン人の青年の「私の人生の過ちは、日本に助けを求めたこと」という言葉は、これまで日本に来た多くの移民、難民の思いを代弁していると思います。



『15歳からの社会保障』 分類 364  
横山北斗 / 日本評論社

15歳はまだ子ども、と思っても成人年齢が18歳に引き下がり、社会の一員として大人の行動が求められる年齢も目前となってきました。この本では、社会にはどんな保障があるのかを高校生向けに具体例で解説。ピンチに見舞われて慌てる前に、一読しておくといいですよ。



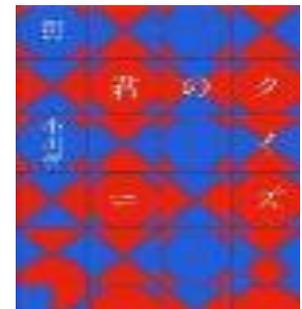
『海と灯台学』 分類 557  
海と灯台プロジェクト / 文藝春秋

どこかロマンを感じさせる「灯台」。海に面して凜とたつ姿、夜間に光を灯す姿、どこか命を宿っているかのように感じさせるからでしょうか。この本では、日本近代の象徴ともいえる灯台にスポットをあて、歴史、技術、地域とのつながりについて紹介。



『光のところにいてね』 分類 913  
一穂ミチ / 文藝春秋

7歳で出会った二人の少女。境遇もまったく違う二人は、強くひかれあう。その後高校と結婚後に再会するが、再会するたびにお互いが自分にとって魂をゆさぶる存在であることを自覚する。7歳のときに約束した「光のところにいてね」という言葉がラストシーンまでこの物語を貫いています。



『君のクイズ』 分類 913  
小川哲 / 朝日新聞出版

早押しクイズの決勝戦。同点で迎えた最後の一回で、本庄は問題が流れる前に回答する。しかも答えは正解！みごと本庄は優勝するが・・・もともと問題を知っていてヤラセだったのか？ネットでは騒然とするなか、決勝で敗れた三島はなぜ本庄が回答できたのか謎を探る。

## 館内にできました、このコーナー！

### <探究学習コーナー>

「読む」「書く」「話す」「調べる」など学びに必要な力に関する資料を一堂にまとめた「探究学習」のコーナーをつくりました。  
“テーマ設定でどうしたらいい？”  
“引用ってどうするんだっけ？”  
など、困ったときにぜひこのコーナーをのぞいてみてほしいです。ソファのそばです。



## ●今月の主な館内展示

### 「図書委員企画：2023 年年賀ブック」

年に一度お正月明けにおこなっている図書委員主催のイベント。  
本の紹介が書かれた「〇〇なあなた様」をヒントに、表紙も中も見えずに借りましょう！  
さて、カバーを外すとどんな本がでてくるかはお楽しみに！  
いくつかここでご紹介します。

- 「小説で胸キュンしたいあなた様」
- 「学校で始まるミステリーを読みたいあなた様」
- 「勉強のモチベーションが下がっているあなた様」
- 「ほんわかストーリーを味わいたいあなた様」
- 「最高の読後感を味わいたいあなた様」
- 「非日常をたのしみたいあなた様」

など。

限定 20 冊です！ 早い者勝ちですよ～



### 「手作りチョコレート菓子」本コーナー

2月のバレンタインデーが近づいてきました。2020年にコロナの感染症が流行しはじめた当初は、「残念だけど、手作りのチョコをあげるのはやめておく・・・」という生徒が続出。ほとんど借りられなかったチョコレートの本ですが、今年はすでに「今から練習で作ってみる！」という人が現れました！数年ぶりにチョコレート菓子のコーナーが賑わいそうです。



本棚 たな年がはじまりました。今年には「卯」年です。ね。毎年カウンタ下では、干支の小さなぬいぐるみが本を読んでいます。が、ご存知ですか？今年親子のうさぎが並んでいます。ちなみに干支は中国からシルクロードによって世界に伝わったそうです。国によって干支の動物は一部異なるようですね。私が働いていたタイでは「うさぎ」が「猫」でした。日本の「猪」もほとんどの国では「豚」だそうです。そんな干支についての本もメディアアスターにはありますので、ぜひどうぞ！ところでこの時期になると、六年生が受験シーズンを迎えます。一人一人が希望の進路に進めますように、と願います（渡邊）